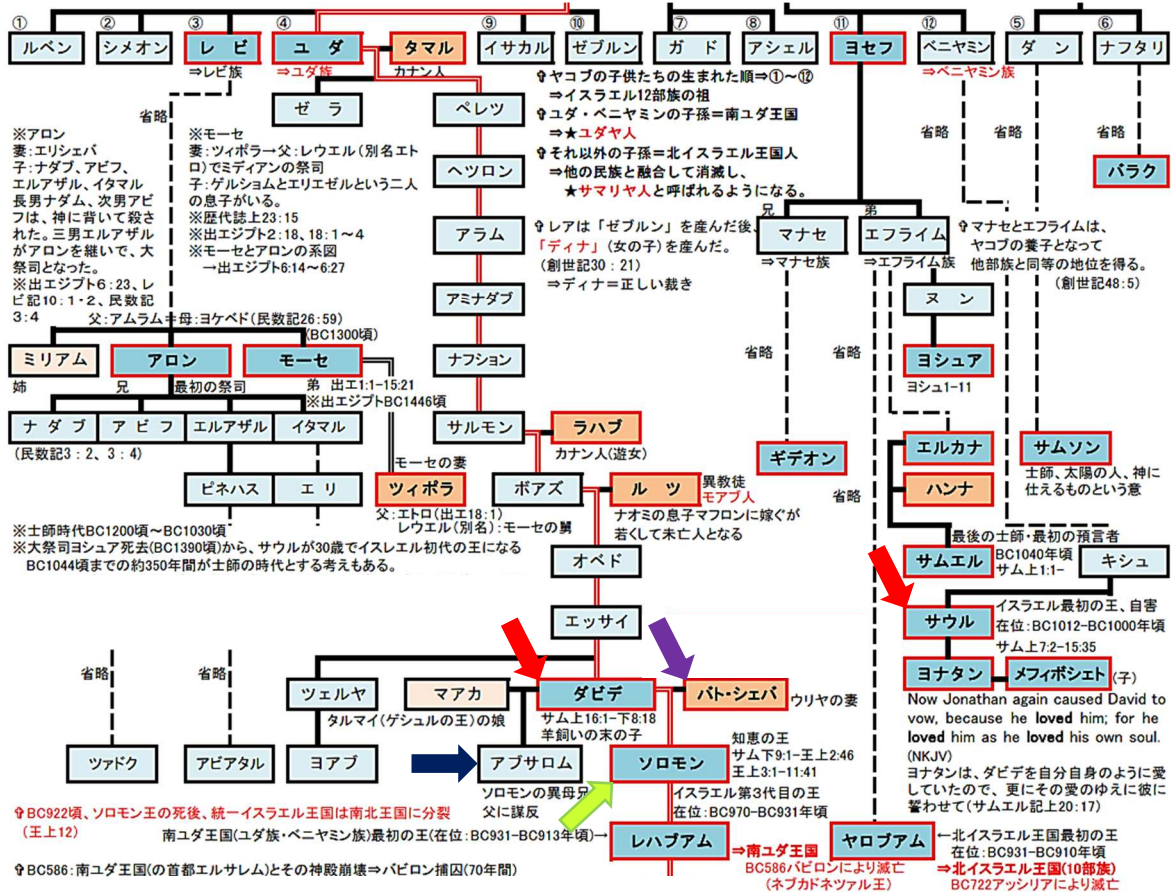


イスラエル第2代の王「ダビデ」 David



エッサイの第八子（サムエル記上 17: 12）で羊飼いかから身をおこして、初代イスラエル王サウルに仕え（サムエル記上 16: 14~22）、サウルがペリシテ人と戦って戦死（自死）した（サムエル記上 31 章）後、ダビデは神の託宣を受けてユダのヘブロンへ赴き、そこで油を注がれてユダの王となった（サムエル記下 2: 1~7）。ユダの一族を率いたダビデは、サウルの後を継いだサウルの息子イシュ・ボシエト率いるイスラエルの軍勢と戦いを繰り返した（イシュ・ボシエトは昼寝中に家臣に殺害された）。ダビデは全イスラエルの王（在位：BC1000年~BC960頃）、指導者になり、エブス人の町であったエルサレム（歴代誌上 11: 4）に進撃してそこを都とした（サムエル記下 4: 1~5: 4）。これ以降、エルサレムは、政治的にも宗教的にも、イスラエルの民の生活の中心地となった。こうして、ダビデは、短期間の内に統一王国を確立することに成功しました。また、ダビデは、エルサレムで「神の家」つまり、神殿の建設を願ったが、神はそれをお赦しにならなかった。理由は、ダビデが多くの人を流させた戦士だったからである（列王記上 5: 17）。結局、神殿の建設は、息子のソロモンに委ねられることになる。



【参考】ダビデ契約(サムエル記下 7: 5~16) : 神とダビデとの契約
 ダビデに与えられた約束は重要で、神はダビデの家系 (→ダビデ王朝) が永遠に続き、その王国 (→ダビデ王国) が永遠に終わる事がないと約束された(サムエル記下 7: 16)。
 ダビデの家系から王座に就き永遠の王として統治される方がイエス・キリストである。
 別の視点から見ると、ダビデ契約は、悪魔に向けられた「イスラエルは永久に滅びることはない」という神の宣言である。

ダビデに対する巧妙な悪魔の攻撃（1）

神はダビデを大いに祝福されたので、イスラエルは黄金時代を築いていくことができました。しかし、悪魔はこれを黙って見てはいなかった。心に緩みが生じていたダビデに悪魔が巧妙な罠、攻撃を仕掛けてきたのである。

悪魔の最大の目的は、ダビデの家系を破壊することである。そのための一番の得策は、ダビデ個人を攻撃することでした。

アンモン人との戦いが再開した当時、ダビデは将軍ヨアブだけを戦地に遣わし、自分はエルサレムに留まっていた。本来、戦いに出陣し、陣頭指揮をとらねばならぬのに、ダビデの心には緩みが生じていたのである。

悪魔はダビデのその弱点を一発で突いた。まんまと悪魔の誘惑にはまってしまったダビデは、こともあろうに姦淫（→聖書に 81 回、68 聖句に登場する）と殺人の罪を犯してしまうのである。これがサムエル記下 11 章に記された、ダビデの最大の罪、「バト・シェバ事件」である。この結果、ダビデの霊的、肉体的、そして精神的な状態は、破滅寸前のところまで追い込まれていくことになる。

そんな中、ダビデは、主に心から悔い改めの祈りを捧げ、神に赦しを乞うたのでした。その祈りに応えて、主はダビデを赦されたのでした。

→ヨハネの手紙一 1:9

自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

しかし、ここで注意しなければならないことは、罪は赦されても、罪の結果は残るということです。神はダビデの罪を赦されはしましたが、ダビデが犯した罪を忘れてはおられませんでした。

神は、ダビデとイスラエルの民に、教訓を学ばせるために、多くの苦難をもたらされました。神は、預言者ナタンを遣わし、ダビデの罪を暴かれました。これは罪の恐ろしさを学ばせるための神の訓練でした。

貧しい人の雌の小羊を強引に取り上げたのは自分であることを知ったダビデは、即座に、主にに対して、そしてウリヤとバト・シェバに対して犯した罪を認め、告白します（ダビデの素晴らしい点は、神の恵みによって、神に立ち帰ることができることと信じたことです）。

その内容が詩編 51 編に記されています。

詩編 51 編は、ダビデの悔い改めの詩です。

01 【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。02 ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。】

03 神よ、わたしを憐れんでください／御慈しみをもって。深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。04 わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。05 あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。06 あなたに、あなたのみにわたしは罪を犯し（→サムエル記下 12:13）／御目に悪事と見られることをしました。あなたの言われることは正しく／あなたの裁きに誤りはありません。07 わたしは咎のうちに産み落とされ／母がわたしを身ごもったときも／わたしは罪のうちにあつたのです。08 あなたは秘儀ではなくまことを望み／秘術を排して知恵を悟らせてくださいます。09 ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください／わたしが清くなるように。わたしを洗ってください／雪よりも白くなるように。10 喜び祝う声を聞かせてください／あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。11 わたしの罪に御顔を向けず／咎をことごとくぬぐってください。12 神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。13 御前からわたしを退けず／あなたの聖なる霊を取り上げないでください。14 御救いの喜びを再びわたしに味わわせ／自由の霊によって支えてください。15 わたしはあなたの道を教えます／あなたに背いている者に／罪人が御もとに立ち帰るように。16 神よ、わたしの救いの神よ／流血の災いからわたしを救い出してください。恵みの

御業をこの舌は喜び歌います。17主よ、わたしの唇を開いてください／この口はあなたの賛美を歌います。18 もしいけにえがあなたに喜ばれ／焼き尽くす献げ物が御旨にかなうのなら／わたしはそれをささげます。19 しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません。20御旨のままにシオンを恵み／エルサレムの城壁を築いてください。21 そのときには、正しいいけにえも／焼き尽くす完全な献げ物も、あなたに喜ばれ／そのときには、あなたの祭壇に／雄牛がささげられるでしょう。

一時的なダビデの欲望（姦淫）の罪の結果、ダビデはもちろん、バト・シェバにも神の裁きが下り、産まれた子は、死を宣告され、病気になる、死んでしまい（サムエル記下 12 : 18）、ダビデの絶頂期もサムエル記下 12 章をもって終わります。

バト・シェバも、自分が犯した罪に対して、神の怒りが非常に厳しいものであることを感じ、深い恐れと悲しみに襲われました。

そして、ダビデには、長年にわたって次々と罪の刈り取り作業である悲劇が起こります。さらに、子アブサロムも父ダビデに対して謀反を起こし、王位を奪おうとします（同 15 : 1～12）。なんとかアブサロムの反乱を収めましたが、張本人のアブサロムは家臣によって殺されてしまいます（同 18 : 15）。

年老いてから、王座を狙われるダビデの心には、恐らく「バト・シェバ事件」に対するいつまでも消えない自責の念や王としての無力感や絶望感等、複雑な感情が入り混じっていたことでしょう。

サムエル記下 15 : 30

ダビデは頭を覆い、はだしでオリーブ山の坂道を泣きながら上って行った。同行した兵士たちも皆、それぞれ頭を覆い、泣きながら上って行った。

これらのことは全てダビデが犯した罪の恐ろしさを学ばせるための神の訓練でした。

悔い改めによって罪は赦されても、犯した罪の結果は決して消えることはなく、残るということを、私たちはこのダビデとバト・シェバ事件の罪の物語から学ぶことができます。

ダビデに対する巧妙な悪魔の攻撃（２）

ダビデに対する悪魔の更なる攻撃は、「人口調査」という形でやって来ました。ダビデが人口調査（サムエル記下 24 章、歴代誌上 21 章）、つまり兵力の調査を行った動機は自らの力を誇るためでした。ダビデは、神よりも自らの兵力、力に頼ろうとしたのでした。そのようなダビデを神は裁かれました（サムエル記下 24 : 11～15）。

ダビデは、人口調査の罪を自覚し、直ちに悔い改めの祈りを神に捧げました（サムエル記下 24 : 25）。

サムエル記下 24 : 11～15（歴代誌上 21 : 9～14）

11 ダビデが朝起きると、神の言葉がダビデの預言者であり先見者であるガドに臨んでいた。12 「行ってダビデに告げよ。主はこう言われる。『わたしはあなたに三つの事を示す。その一つを選ぶがよい。わたしはそれを実行する』と。」13 ガドはダビデのもとに来て告げた。「①七年間の飢饉があなたの国を襲うことか、②あなたが三か月間敵に追われて逃げるることか、③三日間あなたの国に疫病が起こることか。よく考えて、わたしを遣わされた方にどうお答えすべきか、決めてください。』

14 ダビデはガドに言った。「大変な苦しみだ。主の御手にかかって倒れよう（、と三番目の疫病を選んだ）。主の慈悲は大きい。人間の手にはかかりたくない。」15 主は、その朝から定められた日数の間、イスラエルに疫病をもたらされた。ダンからベエル・シェバまでの民のうち七万人が死んだ。

人口調査を行った罪は、正に「高慢の罪」で、サタン（ルシファー）の墮落の原因となった罪でした。自身の保有兵力を誇ろうとする、ダビデの高慢の罪を裁くために、神は、その原因となった兵力を取り去られたのでした。こうした神の裁きは、全ての力の源は神御自身であることをダビデに教えました。こうして、巧妙な悪魔の攻撃はまたしても失敗に終わったのでした。